

# 岩沼出張所つうしん

第 47 号  
平成 17 年 6 月 28 日  
仙台河川国道事務所 岩沼出張所  
岩沼市館下 1 丁目 2 - 9  
TEL 0 2 2 3 - 2 2 - 2 8 0 1

## 水防工法訓練 (左岸水害予防組合 岩沼市 名取市)

阿武隈川下流左岸水害予防組合主催の「水防工法訓練」が、6月26日(日)、組合長(岩沼市長)、副組合長(名取市長)出席のもと、岩沼市押分字御伊勢南原地内の阿武隈川左岸河川敷で開催されました。

早朝から岩沼市水防団、名取市水防団、岩沼市消防署、名取市消防署の総勢480名が参加して積み土のう工法、月の輪工法、かご止め工法、シート張り工法、木流し工法の5工法が実際に訓練され、いずれの工法も実践しながらに、極めて機敏に、的確に展開されました。これからの出水期に備えて、大変心強く感じました。

市民の生命と財産を守る「水防工法訓練」は毎年実施され、後世に脈々と受け継がれていくことでしょう。河川を管理する者として、水防訓練が重要なことを再認識した日でもありました。



月の輪工法を実施する岩沼市・名取市水防団

## 防災エキスパートの現地巡視を実施

地震や水害などの大規模災害時に、岩沼出張所の業務の一部をボランティアで指導していただける「防災エキスパート」の岩沼出張所管内・河川巡視が、6月15日の午後に協定を結んでいる測量コンサルタント業者3社も交えて、行われました。

防災エキスパートは、平山リーダー、三浦(國)、三浦(昭)、庄司、中川の各氏、測量コンサルタント業者は、ウジエ、ササキカンパニーリミテド、三共技術の3社です。

河川巡視中、建設省や国土交通省のOBでもある防災エキスパートからは、阿武隈川の計画論から、堤防の基盤漏水等の重要水防箇所まで、現役時代に養った技術の蓄積の多さに驚かされました。また、大きな災害も経験された方たちで、いざというときの頼もしいアドバイザーたちです。



阿武隈川河口を巡視する平山リーダー他

## (第11回)「水防技術講習会」・開催される

名取川・阿武隈川下流、洪水予報・水防連絡会主催の「水防技術講習会」が、6月19日(日)岩沼市押分字御伊勢南原地内の阿武隈川左岸河川敷で開催されました。

受講者は、いぼ結び、ふな結び、かみくくし等のなわ結びと土のう作りの基礎講習を受講した後、3班に分かれて「せき板工法」、「月の輪工法」、「木流し工法」を各消防署から派遣された指導者の指導を受けながら実演し、工法目的どおりの見事な出来映えを残していきました。

参加者は、受講者54名、指導者27名、観覧者等を含めると百名以上になりました。仙台河川国道事務所管内の水防技術は、関係者による毎年の技術の積み重ねにより、確実に伝承されております。この日の講習により、新たに54名の指導者が誕生し、修了証書と指導者の腕章が授与されました。ますます研鑽を>

木流し工法実施中の受講者



# 阿武隈川水系河川整備基本方針（第5回）

第5回目は、「流域及び河川の概要」の最終回として、砂防事業、河川水の利用、水質、河川の利用についての記載です。今回も、読んでいただければ、理解できる部分です。

砂防事業は、明治33年に福島県が荒川流域において着手したが、地質が温泉作用による変成によって著しく脆弱化しており、崩壊地も多く、大量の土砂流出があるため、工事が至難なことから昭和11年より直轄事業として実施している。さらに、カスリン台風、アイオン台風などにより土砂災害が頻発したことから、昭和25年から松川流域を、昭和52年から須川流域をそれぞれ直轄事業に着手している。

河川水の利用については、阿武隈川の上流域では古くから水不足に悩まされてきたことから、明治政府は農業用水不足に悩む安積平野へ、オランダ人技師ファン・ドールンの設計監修による安積疏水により、他流域である猪苗代湖からの導水を行った。その後発電用水・工業用水などにも利用され、郡山市の発展に寄与した。阿武隈川では、現在、農業用水として約39,000haの耕地のかんがいに利用され、水力発電として明治39年に建設された前田川発電所をはじめとする23箇所の発電所により総最大出力約94,000kwの電力供給が行われている。また、上水道としては郡山市、福島市、岩沼市等の沿川諸都市に対して供給され、工業用水としては、製紙業、紡績業、重化学工業等の沿川工場等に対して供給されている。

水質については、河川延長が長く流域が56市町村からなり、沿川に主要都市が形成されているため生活排水等による人為汚濁負荷量が多く、特に上流部を中心とした高度経済成長期の工場立地等による排水や都市化の進展によって水質が悪化し、下流に流下するに従って支川の流入等によって徐々に水質が回復するという特異な傾向にあった。近年では、法規制や下水道の整備等により徐々に改善されつつあるが、地点、年によっては環境基準値を超過することもある状況にある。また、依然として東北地方では最も水質の悪い水系であり、洪水時にはゴミ流下の課題もあることから、阿武隈川沿川29市町村で構成される「阿武隈川サミット」が組織され、これらの課題について上下流市町村が一体となって生活排水の浄化や河川清掃等の取り組みが始まっている。

河川の利用については、上流部では自然の流れを利用したカヌーが行われており、中流部では灯籠流しや花見、散策、釣りなど、人々の憩いの場として活用されている。下流部では堤防を利用したサイクリングロードが整備され、サイクリングや散策に活用されているほか観光舟下りやいかだ下り等が行われている。また、沿川の水辺の楽校等地域住民が川や自然とふれあえる水辺拠点において、川を軸とした地域交流、体験学習等に活用されている。

## 工事短信

工事名	岩沼左岸地区堤防除草作業等
工期	H17.4.1 ~ H18.3.31
請負者	井上建設（株）

## 工事短信

工事名	亘理地区堤防除草作業等
工期	H17.4.1 ~ H17.12.9
請負者	野村建設（株）

## あとがき

5月1日～5月31日までは、水防の意義及び重要性について理解し、水防意識の向上を図る「水防月間」です。6月1日～6月30日までは、土砂災害防止に関する国民の理解と関心を深める「土砂災害防止月間」です。7月1日～7月31日までは、流域全体の良好な河川環境の保全・再生への取り組みを推進し、国民の河川愛護意識を醸成する「河川愛護月間」です。当地方は、「水防訓練」真っ盛りで、水防工法の伝承が確実に行われており、心強く感じております。

「岩沼出張所つうしん」はインターネットでも見られます  
仙台河川国道事務所ホームページ <http://www.thr.mlit.go.jp/sendai/index.html>